

9. 光重合型充填グラスアイオノマーセメントの臨床評価 (第2報)

○西田郁子、牧 憲司、森本彰子、酒匂賢一
内上掘任人、木村光孝

九州歯科大学小児歯科学講座

目的： グラスアイオノマーセメントは、
歯髄刺激性が少なく、接着性に優れた審美性
修復材として有効である。しかし、コンポジット
レジンと比較すると物理的強度に劣るだけ
だけでなく、硬化初期における感水によって物
性が大きく低下するためその使用頻度は高く
はない。近年、これらの点を改良した光硬化
型のグラスアイオノマーセメントが開発され
た。このセメントに関する実験的研究は数多
く、研磨時期に関する報告もみられる。それ
によると光硬化型であっても一日経過後に研
磨を行った方が良好な結果が得られると報告
されている。そこで今回、実際に乳前歯にグ
ラスアイオノマーセメント充填を行い、即日
研磨を行った症例と一日経過後研磨を行った
症例に関して臨床的に経過観察を行った。

資料および方法： 対象歯は、九州歯科大
学附属病院小児歯科外来を受診した小児のな
かからC₂を有する乳前歯とした。修復に際
してはGC社製光硬化型充填用グラスアイオ
ノマーセメント「Fuji II LC」を供した。

修復は通法に従って行い、窩洞形成には球
形カーバイドバーを使用した。窩洞形態は
Blackの3級窩洞に準じた。グラスアイオ
ノマーセメント充填直後に研磨を行った群と一
日経過後に研磨を行った群とに分けた。リコ
ール時に各修復歯牙に対して、辺縁適合性、
耐摩耗性、歯髄反応、二次齲蝕、修復物の色
調について審査を行った。リコール期間は修
復後1か月、3か月、6か月、12か月とした。

結果： 辺縁適合性、耐摩耗性、修復物の
色調に関しては、一日経過後に研磨した群の
方が良好な経過を示した。歯髄反応、二次齲
蝕に関しては、修復後早い時期においてはほ
んど差はみられなかったが、時間の経過に
伴い修復直後に研磨を行った方に不良症例が
増加してきた。

結論： 光硬化型充填用グラスアイオノ
マーセメントの研磨は、一日経過後に行った方
が良好な結果が得られた。

10. 下顎左側乳歯とその後継永久歯のすべてに
歯牙形成不全がみられた一症例

○細矢由美子

長大・歯・小児歯

〈目的〉： 演者は、下顎左側乳歯とその後継
永久歯のすべてに、歯牙形成不全を認めた
一症例について、10年間に亘る口腔管理を
行う機会を得たので報告する。

〈症例〉： 患児は、2歳9カ月時、D部の骨
膜炎を主訴に歯科医院より紹介されて来院
した。初診時の口腔内所見は、A B C D E
が形成不全を伴う齲蝕に罹患しており、他
にも乳臼歯が4歯齲蝕に罹患していた。
C D Eは抜歯し、A Bはコンポジットレジン
冠で修復した。10カ月後にAは慢性根端
性歯牙支持組織炎に罹患した為抜歯し、床
保険装置を装着した。

患児は、乳幼児期に風邪をひき易く、発
熱し易かった為、度々投薬を受けていた。
母親は、妊娠2～3カ月時に流産の恐れで
数回入院したが、10カ月満期出産で安産で
あった。初めて歯が萌出したのは、生後11
カ月と遅かった。母親は、5/5と7/5が先
天性欠如であり、母方の祖母にも歯牙の先
天性欠如がみられた。

5歳9カ月時、2歯槽部に発赤、腫脹、
疼痛が見られた。X線写真撮影と同部の粘
膜剥離により確認した結果、2が歯芽炎を
生じていた為抜歯した。2 C D E部に床保
険装置を新たに作製して装着した。X線撮
影により、1 2 3 4 5が形成不全歯である
事が確認された。乳歯の歯冠幅径は、平均
値の範囲内にあり、乳歯については、上顎
の長径が平均値より小さかった。

7歳8カ月時、1が萌出したが、形成不
全歯であった為、コンポジットレジン冠で
修復した。第1大臼歯4歯のうち、6のみ
がエナメル質減形成であった。

12歳11カ月時において、3 4 5を除く永
久歯の萌出が完了している。2 3 4 5部
には、現在も床保険装着が使われている。模
型分析の結果、永久歯の歯冠幅径は、上顎
第1大臼歯が-1 S. D.である以外は平均値
の範囲内にある。歯列の長径と幅径は、上
下顎とも平均値の範囲内にある。セファロ
分析の結果、特に問題となる点はみられな
い。